

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	コンビニ（経営者） 観光型ホテル（商品企画担当） 観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き 販売量の動き 販売量の動き	・タスポ効果が出ている。来客数、客単価、売上が上がっている。 ・稼働率に関しては、前年を下回っていた前月に比べて、今月は台風の影響も無く順調に推移している。 ・マスコミ等の報道では安近短のレジャーが良いとのことであるが、予約状況は意外と順調である。
	変わらない	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・特売やお買得商品が出ると、すぐさまその商品への移行がみられる。10円の差額で販売数に大きく影響が出ている。客はそれほど価格に敏感である。
		衣料専門店（経営者）	販売量の動き	・今まで気に入った商品があると、複数購入していた客でも、1枚で我慢する傾向がある。節約を心がけているようである。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・市場としては、ここ数か月間あまり変化は無い。しかし、良い店と悪い店の差がかなりある。
		通信会社（サービス担当）	単価の動き	・ガソリン等の値上げのニュース報道もあり、財布のひもは固い。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・当施設の利用者数は、3か月前は前年同月比で109.5%、今月は7月27日現在で118.5%と前年同月比で高い伸びとなっている。前年は7月に台風があり、閉園、イベントを中止した経緯がある。この影響を考慮した伸びは若干前年同月を上回る程度である。来園者は、家族、団体旅行等が中心である。
	やや悪く なっている	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	販売量の動き	・売上の前年同月比が76%と予想以上に悪い結果となっている。売上減少の要因は来客者の減少、客単価の低下で、先行投資して商品開発に努力しても効果が期待できるか不安である。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・店舗の7月上売の前年比は3か月前の前年比の水準と比較しても改善はみられず、後退感がある。
		通信会社（店長）	販売量の動き	・徐々に来客数、販売数共に落ちてきている。
		通信会社（店長）	販売量の動き	・物価の上昇やガソリン価格の高騰によって客の財布のひもは確実に固くなっており、高価格商品である電話機本体の販売数が減少傾向にある。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	単価の動き	・ガソリン代が値上がりした5月以降は、前年に比べて稼働台数は落ちていないものの、低燃費の小型車への利用にシフトしてきており、単価の高い大型車の利用が減少して単価が下落してきている。
	悪く なっている	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・県内在住者の北部への行楽が減少している。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	販売量の動き	・販売額が激減している。夏休みの学生やボーナス時期の需要等の動きが無く、来客数も減っている。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・例年、7月はかなり売上の上がる月ではあるが、度重なる食料品の値上げ、ガソリンの値上げがあり、平日の地元客の来客数が例年の半分ぐらいになっている。通常2週間ぐらいで客足が徐々に戻ってくるが、元に戻りきる前に何かの値上げでまた、来客が停滞するという事を繰り返している。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	輸送業（代表者）	受注量や販売量の動き	・改正建築基準法や資材高に影響され、民間工事は依然低迷しているが、一部の地区を中心に公共工事の土木関連が堅調で、生コンやアスファルト用砂及び碎石の受注がある。
	変わらない	-	-	-
	やや悪く なっている	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・燃料高騰による製造コスト増や仕入価格上昇と、建築業界の不振による顧客倒産や物流コスト圧縮の流れが続いている。
	悪く なっている	通信業（営業担当）	取引先の様子	・仕事の案件の意思決定が遅くなっているとの声が複数の同業者から聞かれる。

		会計事務所（所長）	取引先の様子	・全ての値段が上がっているが、これを売上単価に反映させることは非常に勇気がある。したがって、とても苦しい。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている			
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・派遣依頼はさほど減少しているわけではなく、数字的にも落ち込みはあまり無い。しかし、大きく増加・拡大しているわけでもない。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・県外企業の求人は相変わらず活発であるが、県内企業は夏休み終了後のあたりから、特に中小企業の求人活動が活発化、かつ本格化する。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・平成20年6月の新規求人数が2,323人で3か月前比20.9%、前年同月比で26.2%、それぞれ減少している。常用求人数は2,001人で3か月前比23.2%、前年同月比24.9%、それぞれ減少している。月間有効求人数が6,295人で3か月前比16.4%、前年同月比15.3%、それぞれ減少している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・県外人材派遣会社の求人数が大幅に削減されている。業務を請け負っている大手メーカーの人員削減を見越しての行為である。
悪くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・不況感が強まり、採用控えが増えている。それに伴い求人数が激減している。	